

ロシアNOW

東京正教神学院の神学生

2014年5月8日 [アレクサンドル・レーニン](#), ロシースカヤ・ガゼータ（ロシア新聞）モスクワ市の「A.ソルジェニーツィン亡命ロシア人会館（Dom Russkogo Zarubej'ya Im. A. Soljenitsyna）」で、「ロシア人神学生のできごと」という不思議なテーマの企画展が開幕した。展示品は1900年代初めの「東京正教神学院」の神学生に関する資料。神学生の歩んだ人生は、波乱に満ちた推理小説の題材になってもおかしくない。



オシチェプコフは、東京正教神学院でもっとも有名な卒業生の1人。=写真提供：Pravmir.ru

劇的な運命の交差

企画者によると、純粋な人間の願い、国民の悲劇、個人の利益、複数の特殊機関の利益などが、彼らの運命には劇的に絡み合っているという。神学者の名前のほとんどが専門家にも明らかになっていないが、神学生は20世紀初めの極東の重要なできごとの証人というだけでなく、積極的な関与者でもあった。残されている多くの秘密は、これから解明していかなければならないだろう。

日本とロシアの公文書館には、東京正教神学院のロシア人神学生に関する大量の資料が眠っている。ロシア側の情報の多くは今でも機密扱いだが、研究者の努力によって、日本で保管されている文書の閲覧が可能となり、一部神学生の子孫も判明した。

これによって、写真、文書、オーディオ・ビデオ資料、神学生の所有物などを見学することが可能となった。